

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2011年版）|使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	京都看護大学(仮称)新築工事	階数	地上4F	
建設地	京都市中京区壬生東高田町1番21	構造	RC造	
用途地域	市街地域	平均居住人員	430 人	
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,100 時間/年	
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2013年7月 予定	評価の実施日	2013年7月16日	
敷地面積	8,912 m <sup>2</sup>	作成者	村本建設 中野義博	
建築面積	1,042 m <sup>2</sup>	確認日	2013年7月17日	
延床面積	2,739 m <sup>2</sup>	確認者	村本建設 中野義博	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<b>BEE =0.7</b> S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆ <b>標準計算</b> ①参照値 100% ②建築物の取組み 92% ③上記+②以外の 92% ④上記+ 92% (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> ) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量の目安で示したものです (kg-	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<b>Q 環境品質</b> <span style="float: right;">Q のスコア= 2.4</span>		
<b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア= 2.8 音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	<b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア= 2.5 機能性 耐用性 対応性	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア= 1.8 生物環境 まちなみ 地域性

LR 環境負荷低減性		
<b>LR のスコア= 2.9</b>		
<b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア= 3.2 建物の 自然エネ 設備システ 効率的	<b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア= 2.9 水資源 非再生材料の 汚染物質	<b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア= 2.6 地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 建具その他も含めて、建物内にはF☆☆☆☆を使用		<b>その他</b> 0
<b>Q1 室内環境</b> 館内全面禁煙である	<b>Q2 サービス性能</b> 建具その他も含めて、建物内にはF☆☆☆☆を使用	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
<b>LR1 エネルギー</b> 省エネを図っている(省エネルギー計算参照)	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される